

Program

レスピーギ：

リュートのための古風な舞曲とアリア

小舞曲〈オルランド伯爵〉／ヴィツラネッラ／ガリアルダ
イタリアーナ／シチリアーナ／パッサカリア

ベートーヴェン：

ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111

ムソルグスキー：

組曲『展覧会の絵』

Respighi: Antiche danze ed arie per liute

Balletto detto / Villanella / Gagliarda / Italiana / Siciliana / Passacaglia

Beethoven: Piano Sonata No. 32 in C Minor, Op. 111

Mussorgsky: Pictures at an Exhibition

東京では4年ぶり

大阪では10年ぶりとなるソロ・リサイタル

清水和音

ピアノ・リサイタル

Kazune
Shimizu

Piano Recital

2024年
大阪 11月10日(日) 14:00開演 (13:00開場)
ザ・シンフォニーホール

全席指定 6,000円(税込)

〈お申し込み〉

ザ・シンフォニー チケットセンター

<https://www.symphonihall.jp> 06-6453-2333(火曜定休)

チケットぴあ(Pコード: 268-215) ローソンチケット(Lコード: 56713) イープラス
CNプレイガイド 0570-08-9999(オペレーター対応 10:00~18:00)

〈お問合せ〉 キョードーインフォメーション 0570-200-888(11:00~18:00/日・祝休み)

一般発売 6月2日(日) 10:00~

ザ・シンフォニーホール シンフォニア会員先行予約
2024年5月23日(木)~

2024年
東京 11月23日(土祝) 14:00開演 (13:15開場)
サントリーホール

S 6,500円 A 5,500円 B 4,000円(税込)

〈お申し込み〉

サントリーホールチケットセンター

<http://suntory.jp/HALL/> 0570-55-0017(10:00~18:00/休館日を除く)

チケットぴあ(Pコード: 266-023) ローソンチケット(Lコード: 33269) イープラス

〈お問合せ〉 サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00)

一般発売 4月29日(土) 13:30~

公式サイト



主催: PROMAX/朝日新聞社/ザ・シンフォニーホール(大阪) ※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※曲目は変更になる可能性があります。

男は黙ってピアノを弾く、その雄弁さが時を超える——。

青澤隆明

ピアニストこそ、男のなかの男である——。少年時代に胸に刻まれた恩師の言葉を、清水和音は勇敢に証し続けてきた、半世紀に近づく精力的な演奏活動を通じて。しかし、それは目標や目的などではなく、音楽家としての佇まいが結果として自ずと告げていたことだ。

ソロ・リサイタルで、舞台の上に存在するのはただひとり。いや、作曲家とともに在るのだから、そのひとは天才の作品に耐えるだけの雄大な器量をもっていなければならない。演奏家の覚悟はまず音に表れる。清水和音のピアノの音は、歳月を経るなかで、さらに濃くなってきた。

ベートーヴェン晩年のソナタには、ピアノという楽器の領域を超え、ひたすら純粹に求められた世界が広がっている。おなじく清水和音が愛奏してきたムソルグスキーの『展覧会の絵』の逞しい力強さは、まさに“漢”と言うにふさわしい魅力だ。新たなレパートリーとなるレスピーギの『古風な舞曲とアリア』は作曲家自身が編曲したもので、これもピアニスティックな想像力とは一味違う風合いがある。ムソルグスキーが武骨なまでに音楽を掴み、ベートーヴェンが観念的な超越を遂げたように、三者三様の傑作はいずれもピアノという現実的な制約をものとしめない。それをいかにピアニスティックに、同時に楽器を超えた音楽として、つまり人間の創造力として雄渾ゆうこんに示せるか——。

清水和音が満を持して——東京では4年ぶり、大阪では実に10年ぶりに——取り組むピアノ・リサイタルへの期待はとても大きい。真正面から名曲に向き合うことを通じ、時代を超えて人間の信、そして個人の生きざまを問う、かけがえのない音楽の時間となるに違いない。

清水 和音 Kazune Shimizu

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。

ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。CDはソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数リリース。各誌で絶賛されている。

2016年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸術ブランココンサート」を開始。デビュー40周年となった2021年秋には「清水和音 ピアノの祭典」と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。毎年春に開催の「三大ピアノ協奏曲の響宴」では、ベートーヴェン「皇帝」、チャイコフスキー第1番そしてラフマニノフ第2番の3曲を一気に披露、完売の続く大人気公演となっている。桐朋学園大学・大学院 教授。